

学会だより

◇ 常任幹事会議事録

開催日時：平成 20 年 3 月 1 日（土）14:00 より

開催場所：京都大学大学院農学研究科

出席者：会長 谷坂隆俊，副会長 長戸康郎，佐藤裕，阿部利徳，小松田隆夫，勝田真澄，大澤良，江面浩，平田豊，佐々英徳，北野英己，長谷川博，奥本裕，寺地徹，加藤鎌司，熊丸敏博，中園幹生

各常任幹事からの経過報告後，平成 21 年春季大会を筑波大学での日本作物学会・日本育種学会合同開催，平成 19 年度決算および平成 20 年度予算，オンライン投稿システム管理費用，非会員からの投稿受付方法，Breeding Science 誌への論文掲載の有料化，沖縄選出幹事に関する内規改定，名誉会員推戴，学会功労賞の創設，男女共同参画推進委員会のホームページ立上げ，第 50 回記念シンポジウムに関して討議を行った。

◇ 幹事会議事録

開催日時：平成 20 年 3 月 27 日（木）14:00 より

開催場所：明治大学理工学部（第二校舎）A 館 4 階

出席者：会長 谷坂隆俊，副会長 長戸康郎，倉田のり，佐藤裕，佐野芳雄，原田竹雄，阿部利徳，西尾剛，江面浩，大澤良，佐々木卓治，矢野昌裕，房相佑，間野吉郎，阿部知子，平田豊，丸橋亘，野村和成，野々村賢一，北野英己，掛田克行，長谷川博，山田利昭，山岸博，石井尊生，加藤鎌司，辻本壽，佐藤和広，喜多村啓介，久保友彦，三浦秀穂，高畑義人，鳥山欽哉，菅野明，半田裕一，奥野員敏，新倉聡，石坂宏，金子幸雄，吉田薫，荻原保成，宍戸理恵子，佐藤豊，村井耕二，松岡信，築山拓司，寺石政義，清水顕史，富田因則，安井秀，穴井豊昭，田浦悟，寺地徹，勝田真澄，小松田隆夫，吉村淳，佐藤光，熊丸敏博，佐々英徳，奥本裕，伊藤純一，田口文緒，中園幹生（63 名）

委任状：石本政男，三上哲夫，森宏一，星野次汪，大川安信，岩田洋佳，木庭卓人，片山義博，古田喜彦，小島昭夫，村田達郎，藪谷勤，渡辺信義，江川宣伸，滝田正，渡邊和男，大村三男，和田卓也（18 名）

1. 各常任幹事経過報告

1) 庶務（奥本）Breeding Science (BS) 誌発行費用に対する平成 20 年度科研費「学術定期刊行物」について，平成 19 年度より申請に際して BS 誌の印刷業者を競争入札によって指名することが義務付けられたことが報告された。これに伴い，2 月 29 日より 5 日間学会ホームページに入札公告を掲載し，3 月 11 日に入札説明会を，ならびに 3 月 18 日に郵送による入札を実施したこ

と，ならびに入札参加業者が中西印刷株式会社 1 社であり入札価格が入札予定価格限度内にあったことから，平成 20 年から平成 23 年までの BS 誌の印刷の落札業者は中西印刷株式会社に決定したことが報告された。

- 2) GMO 関連（江面）遺伝子組換え植物に対する正しい情報を社会に広報していくことを意図して，日本育種学会，植物化学調節学会，植物生理学会，植物細胞分子生物学会，農芸化学会が中心となり GMO 関連学協会連絡会を立ち上げたこと，連絡会代表は佐藤文彦氏（農芸化学会），事務局担当は江面浩氏，事務局員を小泉望氏，大澤良氏，渡邊和男氏にそれぞれ依頼したことが報告された。
- 3) 科研費・農学会（中園）「学術定期刊行物」では 450 万円の申請に対して 250 万円が交付されたこと，ならびに「研究成果公開促進費（B）」は不採択であったことが報告された。
- 4) 英文誌編集（小松田）編集状況ならびに投稿規程の改定について報告された。主な変更点は採択時に掲載料（会員 1 万円，非会員 2 万円）を徴収する点，非会員からの投稿を受け付ける点であることが紹介された。（勝田）4 月 1 日よりオンライン投稿システムが稼動することが報告された。当初は試行期間を設ける予定であったが間に合わなかったことが併せて報告された。
- 5) 和文誌編集（吉村）原著の投稿数が減少傾向にあるので積極的な投稿の依頼がなされた。
- 6) 集会（佐々）山形大学での平成 19 年秋季大会開催では，一般講演 275 題（口頭 185，ポスター 90），参加者 506 名であったこと，平成 20 年春季大会が一般講演 290 題（口頭 206，ポスター 84），参加者は 600 名程度になる見込みであることが報告された。また，平成 20 年秋季大会は滋賀県立大学において運営委員長を長谷川博氏として 10 月 11 日，12 日に開催予定であることが紹介された。
- 7) 学会間連携（北野）日本作物学会と日本育種学会双方のメンバーからなるワーキンググループで学会間連携の具体的なあり方を検討してきたこと，その中から合同学会開催が提案されたことが報告された。
- 8) 国際学会（平田）第 5 回国際作物学会（韓国，济州島）において作物学会との共同シンポジウムを開催することが報告された。育種学会側からは，奥本裕氏，斉藤浩二氏，福田善通氏が話題提供をすることが併せて紹介された。
- 9) ホームページ（寺地）平成 19 年より HP への新着情報掲載時に会員宛にお知らせメールを配信するようにした結果，HP のアクセスが増加したことが報告された。お知らせメールが不要な会員にも配信されること

から、お知らせメールの可否を幹事に確認した。その結果、大多数の幹事は新着情報のお知らせメール配信に賛同されたことから、引き続きメール配信を継続することとした。

- 10) 地域活動（各地域幹事）地域活動補助費を予算化したことに伴い、各地域での研究会開催が活性化したことが報告された。2年間の活動の中で、東北地区では休止していた活動が東北育種研究会として再編されたこと、中部地区は北陸と東海に分かれて開催しているが両方のブロックの共同企画も検討中であること、中国四国地区では休会していた山陽談話会を再開予定であること、九州地区では平成19年から新たに育種研究会の開催を始めたことが報告された。

2. 議事

- 1) 沖縄県選出幹事不在の場合の指名幹事制度に関する内規の削除：内規の削除について長戸副会長より説明があり、該当する条項の削除が承認された。
 ◎現行内規：C. 役員その他の人事に関する事項 2) 選出幹事の選出に当たって沖縄県に当選者がいない場合は同県より1名を指名幹事として指名する。
 ◎改定内規：C. 役員その他の人事に関する事項 2) を削除する。
- 2) 平成20-21年度の役員について
 平成20-21年度の会長指名幹事、常任幹事、会計監事の推薦、編集委員長、日本農学会評議員および日本農学会運営委員の推薦について提案があり、いずれも原案どおり承認された。役員については下記を参照のこと。
- 3) 平成20年度学会賞選考委員（6名）の選出
 平成20年度学会賞選考委員に関する選挙が行われ、6名が同委員に決定した。委員については下記を参照のこと。なお、委員長は内規に従い副会長が務める。
- 4) 平成20-21年度シンポジウム委員（5名）の選出
 平成20-21年度シンポジウム委員に関する選挙が行われ、5名が同委員に決定した。委員については下記を参照のこと。なお、大会の会期中に委員会が開催され、委員の互選により委員長が選出された。
- 5) 第5回（平成19年度）論文賞の選考
 第5回（平成19年度）論文賞に関して論文賞選考委員会より推薦された候補について投票を行い、次の2件が論文賞に決定した。

〈日本育種学会論文賞第9号〉

論文名：A major QTL confers rapid internode elongation in response to water rise in deepwater rice（1つのQTLが浮イネにおける深水条件下での節間伸長を付与する）

著者：Hattori Y, Miura K, Asano K, Yamamoto E, Mori H, Kitano H, Matsuoka M, Ashikari M（服部洋子、三浦孝太郎、浅野賢治、山本英司、森仁志、北野英己、松

岡信、芦刈基行）

掲載誌：Breeding Science 57(4)：305-314.

〈日本育種学会論文賞第10号〉

論文名：A QTL cluster for plant architecture and its ecological significance in Asian wild rice（野生イネの持つ草型に関連したQTLクラスターとその生態的役割）

著者：Onishi K, Horiuchi Y, Ishigoh-Oka N, Takagi K, Ichikawa N, Maruoka M, Sano Y（大西一光、堀内優貴、石郷岡典子、高木恭子、市川直史、丸岡正道、佐野芳雄）

掲載誌：Breeding Science 57(1)：7-16.

- 6) 平成19年度決算報告、監査結果（長谷川）

平成18年度以前と比べ大きく変わった点を中心に決算報告がなされた。支出では、印刷費が減ったのは、科研費「学術定期刊行物補助金」を支払いに充当したため、ならびに印刷ページ数が少なくなったことが原因であることが報告された。科研費については平成19年度より独立会計としていることも報告された。監査報告は会計監事木庭卓人氏の監査報告書を大澤幹事長が代読した。賛成多数により平成19年度決算は承認された。

- 7) 平成20年度予算案の検討（長谷川）

収入では科研費補助金が採択されないことを想定していること、支出では投稿規程の変更に伴うオンライン投稿システム管理費の新設、英文校閲料の増額、通信費の減額があること、新たに男女共同参画推進委員会への予算配当を追加したことが報告された。また、科研費会計の外部監査費用ならびに例年8月頃に運営費が底をつき支払い不能に陥る事態を避けるため約300万円の予備費を設けていることが報告された。賛成多数により平成20年度予算案が原案通り承認された。

- 8) 平成21年度春季大会の開催場所ならびに日本作物学会との合同開催について（北野）

筑波大学での合同開催日程が平成21年3月26-28日（26日幹事会、27、28日講演会）であること、合同シンポジウムに関してはそれぞれのシンポジウム委員会が相談しながら計画すること、懇親会は合同懇親会とすること、講演はすべてポスター発表とすることなどが報告された。併せて、合同シンポジウムに関しては、今後よく検討して連携テーマを企画すること、合同ポスターセッションでは自由に研究交流ができること、保育室に関しても検討を進めることが紹介された。提案された形式での合同学会開催について審議した結果、日本作物学会との合同大会を筑波大学で開催することが承認された。

- 9) Breeding Science 誌の投稿規程改訂（小松田）

論文がBS誌に受理された場合には掲載料を徴収すること、掲載料は会員1万円および非会員2万円とすること、非会員からの投稿を認めることなどの投稿規

程改訂が提案され、提案通り承認された。

10) 会則「第5条」の改訂について（大澤）

非会員からの投稿を可能にするため、下記の会則改訂が承認された。

◎現行会則「第5条 本会の会員は普通会員、団体会員、学生会員、名誉会員および賛助会員の5種とする。
(中略)団体会員および賛助会員を除くすべての会員は講演会および学会誌において業績を発表することができる」

◎改訂会則「第5条 本会の会員は普通会員、団体会員、学生会員、名誉会員および賛助会員の5種とする。
(中略)団体会員および賛助会員を除くすべての会員は講演会において業績を発表することができる」

11) 学会功労賞表彰に関わる会則ならびに内規改訂について（大澤）

学会功労賞の創設が承認され、併せて学会功労賞表彰に関わる会則ならびに内規H項の追加が承認された。

A. 内規の追加項目 H. 日本育種学会功労賞の選考に関する事項

- 1) 本会は日本育種学会会則第4条にもとづき、本会の会則で定めるところの事業の発展に顕著な功労のあった会員および団体に対して日本育種学会功労賞を授与し、これを顕彰する。
- 2) 育種学会功労賞の推薦は常任幹事会があたるものとする。
- 3) 会長は常任幹事会が推薦した候補者について、理由を付して幹事会に提案する。幹事会は、出席者の2/3以上の無記名の賛成を得て、受賞者を承認し、決定する。
- 4) 功労賞受賞者の発表は総会において行い、受賞者には賞状を贈呈する。

B. 会則の改訂

◎現行会則 第4条「本会は次の事業を行う。

- (1) 講演会その他の会合の開催
- (2) 学会誌（英文誌および和文誌）その他の刊行
- (3) 日本育種学会賞、日本育種学会奨励賞および、日本育種学会論文賞の授与

（後略）」

◎改訂会則「第4条 本会は会則第2条の目的を達するため次の事業を行う。

- (1) 講演会その他の会合の開催
- (2) 学会誌（英文誌および和文誌）その他の刊行
- (3) 日本育種学会賞、日本育種学会奨励賞、日本育種学会論文賞および日本育種学会功労賞の授与

（後略）」

12) 名誉会員推戴について（大澤）

谷坂会長より、安田省三氏、村松幹夫氏、鶴飼保雄氏の推戴理由が説明された後、会長より推薦された3氏を総会で名誉会員に推戴する件が承認された。

13) 複数の論文をあわせて1つの論文賞の対象とする可否について（長戸）

論文賞の対象として複数論文をあわせて1つの論文賞候補とするかどうかについて討議されたが、複数論文をあわせた候補の審査になると審査基準が複雑になること（共著者がどこまで一緒なら1つの論文賞の対象と認めるのか、また、複数の論文が異なった年に掲載された場合に論文賞の対象外になるため同じ年に発表された論文との比較において不公平であるなどの問題が生じる）、および論文としての完成度も論文賞の審査基準として重要であることなどの理由により、平成20年度の論文賞も単報を審査対象とすることとなった。

3. 関連報告

1) シンポジウム委員会（奥本（シンポジウム委員長代理））

平成20年秋季大会では第50回記念シンポジウムとして、日本育種学会主催の「育種学最近のトピックス」ならびに日本学術会議育種学分科会との共催による「動植物育種の到達点と目標」が一般公募シンポジウム4課題と併せて開催されることが紹介された。

2) JABEE（平田）

明治大学の丸橋亘氏が新たにJABEEの審査員として認定を受けられたこと、これを機会に農学関連学会のJABEE活動をさらに充実させていくことが紹介された。

3) 男女共同参画推進委員会（吉田）

男女共同参画学協会連絡会による2回目の大規模アンケートによる実態調査が行われたこと、平成19年秋季学会でのランチョンセミナー開催に引き続き、平成20年春季大会でも3月29日にランチョンセミナー開催を予定していることが紹介された。また、男女共同参画推進委員会のページを学会ホームページ内に開設予定であること、平成20年度より推進委員会への予算配分が認められたことから、学会開催時の保育室の開設費用の一部を学会で負担する予定であることが報告された。

4) 記者レク（大澤）

3月21日にマスコミ8社に対して3時間程度の記者レクを実施したことが報告された。

◇ 総会

開催日：平成20年3月28日

開催会場：明治大学中央校舎メディアホール

1. 各常任幹事報告 庶務、集会、科研費・農学会、英文誌、和文誌、ホームページ
2. 第5回（平成19年度）日本育種学会論文賞の発表
3. 議事

- (1) 平成19年度決算報告・会計監査報告
- (2) 平成20年度予算案の審議
- (3) 次期開催校（滋賀県立大学）の紹介
- (4) その他

議事はいずれも異議なく承認された。

◇ 平成 20-21 年度日本育種学会役員等

会長 長戸康郎
副会長 倉田のり

幹事

選出幹事 (40 名)

北海道：喜多村啓介，久保友彦，佐野芳雄，三浦秀穂
東北：原田竹雄，高畑義人，滝田正，鳥山欽哉，菅野明
関東 1：半田裕一，矢野昌裕，江面浩，奥野員敏，岩田洋佳，渡邊和男

関東 2：新倉聡，木庭卓人，石坂宏，金子幸雄

関東 3：吉田薫，中園幹生，荻原保成，宍戸理恵子，平田豊

中部：佐藤豊，掛田克行，大村三男，村井耕二，松岡信
近畿：築山拓司，寺石政義，清水顕史，長谷川博

中国・四国：加藤鎌司，佐藤和広，富田因則

九州・沖縄：安井秀，穴井豊昭，田浦悟，和田卓也

会長指名幹事 (7 名)

伊藤純一，寺地徹，乙部千雅子，小松田隆夫，田口文緒，佐々英徳，久保山勉

常任幹事

幹事長：矢野昌裕

庶務：中園幹生 (総務)，奥野員敏 (国際渉外・学会間連携)，江面浩 (GMO 関連)，伊藤純一 (科研費・農学会)，寺地徹 (ホームページ)，久保友彦 (地域)，鳥山鉄哉 (地域)，佐藤豊 (地域)，築山拓司 (地域)，加藤鎌司 (地域)

会計：長谷川博，乙部千雅子

英文誌：小松田隆夫，田口文緒

和文誌：安井秀 (兼地域)

集会：佐々英徳 (兼地域)，久保山勉

会計監事

佐藤裕，奥本裕

編集委員長

佐々木卓治

編集委員

[新委員] (5 名)：小松田隆夫，林武司，北野英己，奥野員敏，安井秀

[継続委員] (12 名)：阿部純，Darshan S. BRAR，平井正志，Sang-Nag Ahn，加藤恒雄，喜多村啓介，森直樹，西尾剛，野田和彦，大島正弘，佐藤隆徳，寺地徹，渡邊敦史，許東河，山本俊哉，J.Michael Bonman，加藤浩，矢野昌裕，大澤良，銭前，井辺時雄，Andris Kleinhofs，辻本壽，Duncan A. Vaughan

日本農学会関連

評議員：長戸康郎，倉田のり

運営委員：伊藤純一

その他の学会推薦委員

財団法人農学会：技術者推進委員会委員 平田豊

男女共同参画学協会連絡会委員：吉田薫

男女共同参画推進委員会：吉田薫 (委員長)，勝田真澄，長村吉晃，金澤章，近江戸伸子

GMO 連絡会委員：江面浩 (兼：連絡会事務局長)，大澤良

学会賞選考委員

委員長：倉田のり

委員：喜多村啓介，佐野芳雄，矢野昌裕，加藤鎌司，鳥山鉄哉，奥野員敏

(次点：吉田薫，荻原保成，高畑義人)

シンポジウム委員

平田豊 (委員長)，江面浩，松岡信，村井耕二，佐藤和広

◇ 平成 19 年度決算および平成 20 年度予算

(単位：円)

収入の部	平成 19 年度決算	平成 20 年度予算
前年度繰越金	3,862,357	5,006,769
会員会費	17,538,513	18,950,000
賛助会員会費	80,000	800,000
別冊等頒布	2,976,615	3,821,000
掲載料・別刷代等 ¹⁾	2,224,930	2,300,000
広告料	818,700	800,000
雑収入	173,574	100,000
寄付金	500,000	350,000
印税収入	103,200	10,000
合計	28,277,889	32,137,769
支出の部	平成 19 年度決算	平成 20 年度予算
I. 事業費	13,749,872	18,320,000
1. 雑誌刊行費	7,835,065	12,080,000
2. 別冊刊行費	2,978,931	3,250,000
3. 大会費	1,200,000	1,200,000
4. シンポジウム費	465,386	800,000
5. 学会賞費	292,940	350,000
6. オンライン版作成費 ²⁾	467,250	640,000
7. 名簿作成費	510,300	0
II. 運営費	9,391,668	10,199,209
1. 学会分担金	306,011	336,000
2. 事務担当者手当	380,000	380,000
3. 事務費	3,013,463	3,420,000
1) 庶務	1,336,799	1,400,000
2) 編集	1,344,704	1,600,000
英文誌	1,245,040	1,300,000
和文誌	99,664	300,000
3) 集会	242,960	300,000

4) 会計	89,000	120,000
4. 事務委託費	4,402,650	4,500,000
5. 通信費・送料	595,259	600,000
6. 付属印刷物	384,331	400,000
7. 男女共同参画協会活動費	0	140,000
8. 地域活動費	283,389	339,209
9. 雑支出	26,565	100,000
III. 予備費	129,580	3,302,560
IV. 次年度へ繰入	5,006,769	0
V. 運営基金へ繰入	0	0
VI. 学会賞基金へ繰入	0	0
合 計	28,277,889	32,137,769

基金関係	平成 19 年度決算	平成 20 年度予定
運営基金	16,749,888	16,749,888
学会賞基金	3,250,000	3,250,000
事典委員会	50,362	50,362

¹⁾平成 19 年度までは別刷代

²⁾平成 19 年度まではオンライン費

◇ 学会賞授賞式・受賞講演

開催日：平成 20 年 3 月 28 日

開催会場：明治大学中央校舎メディアホール

平成 19 年度 日本育種学会賞

- ・原田久也（独立行政法人農業生物資源研究所）：ダイズにおけるゲノム解析基盤の構築とその育種の利用
- ・愛知県農業総合試験場・北海道農業研究センターイネ病害抵抗性育種グループ（代表：藤井潔）「イネ縞葉枯病・穂いもち抵抗性に関する DNA マーカー選抜育種の体系化」

平成 19 年度 日本育種学会奨励賞

- ・山田哲也（東京農工大学大学院農学府）「プログラム細胞死による雑種致死と花卉老化の誘導機構に関する生理遺伝学的ならびに細胞生物学的研究」
- ・小森俊之（日本たばこ産業株式会社植物イノベーションセンター）「分子遺伝学的手法を用いたハイブリッドイネ実用化に関する研究」

◇ 男女共同参画推進委員会からの報告

1. ホームページ開設のお知らせ

育種学会ホームページ内に男女共同参画推進委員会のページを新設いたしました。これまでの活動報告や今後の活動計画のほか、アンケート調査結果やランチョンセミナーで使用した PowerPoint ファイルが見られる資料室などのページがございます。

2. ランチョンセミナー「育種学会における男女共同参画を目指して Vol. 2—東京農工大学における女性研究者支援—」開催報告

開催日時：平成 20 年 3 月 29 日 12:10-13:20

開催場所：明治大学理工学部

表記内容に関する本学会における第 2 回のセミナーを

本学会の男女共同参画推進委員会が中心となって春季大会期間中の昼食時に開催した。委員以外の参加者は、75 名（男性 44 名、女性 31 名；前回より 16 名増）であった。

今回のセミナーでは、第一に、東京農工大学女性キャリア支援・開発センターコーディネータ（特任准教授）の秋田カオリ氏より、科学技術振興調整費「理系女性のエンパワメントプログラム」による支援を受けての同センターの取り組みとその成果について紹介がなされた。その主な活動内容は、以下の 4 項目に集約される。

1) 学生向けのキャリアパス支援

大学院生が学部生の研究生活や進路についての助言を行うメンター制度、キャリアガイダンスの開催、次世代の人材育成支援として女子中高生のサマースクールの開催

2) 教員・研究員向けの出産・育児・介護支援

出産・育児、介護の負担があっても研究を継続し続けるように、センターの特任助手の派遣やポストクの配置をして対象者の研究業務を支援する制度、ベビーシッターやケア・ワーカーのサービスを割引引きで受けられるクーポン制度、周辺自治体と連携した出産・育児・介護の相談窓口の設置

3) 卒業生向けの「母校に戻ろうキャンペーン」

卒業生を対象とした就労・再就職の支援を目的としたセミナーの開催、研究生・科目等履修生の学費免除制度、卒業生が情報の共有やコミュニケーションを行うためのオンラインサービスの運営

4) 女性研究者に関するエンパワメント環境整備

同大学の男女共同参画推進室との連携による職員・学生を対象としたアンケートの実施、女性研究者自立支援のための講演会の開催、就業規則の改正等

講演後、質疑が行われた。3 年間の振興調整費による支援や半年間の産休中のポストク配置制度といった期限のある活動の終了後の対応に関する質問があった。前者に関しては、センターは継続することとなっており、経費がかからないような運営の仕方を検討していくとの回答があった。後者に関しては、半年間でも採用希望者が存在するという実情、ならびに、任期中に他の仕事先が見つかった事例や採用期間後を当該研究室の他の資金で支援してもらった事例が紹介された。卒業生の支援の利用状況について質問があり、利用は若い世代が中心であるが、年配の方にも利用されていることの回答があった。また、女性の教授等の PI (Principal Investigator) の割合の動向に関する質問があり、このことに関する同大学の学長からの呼びかけや同センターが女性教員の割合を増やすべくはたらきかけをしている旨が紹介された。

講演に続いて、本学会の男女共同参画推進委員会の委員長である吉田薫氏より科学技術振興調整費による各大学の活動が紹介された。その特色のある取り組みの例として、北海道大学における、各学部管理の運営費におけ

る新規採用女性教員人件費の一部を全学運用分から補填することを女性教員採用のインセンティブとしている事例、東北大学における、女性大学院生が身近なロールモデル（手本）として母校へ出張セミナーを実施している事例、お茶の水女子大学における、育児中の女性研究者への研究補助員および事務補佐員の配置、ワークライフバランスのための適正な勤務時間の励行、事務連絡をしない研究専念タイムの設定を行っている事例、京都大学における病児保育室の設置や入園待機児のための保育の実施、北海道大学・熊本大学における若手研究者カップルの同居支援制度、神戸大学におけるロールモデルや助言を提供できるメンターラボ制度、東京大学における女性研究者の国際力の育成を目的とした国際シンポジウム開催支援等が紹介された。

同委員会の委員からは、男女共同参画のための環境が整備されることを望むこと、このことに関する知識が十分でない人が多いことから、発言を望んでいること、啓発活動の重要性や男女共同参画社会基本法の理念を男性女性とも再認識してほしいといった呼びかけがなされた。

同委員会による前回のセミナーの際に行ったアンケートでは、本学会の会員から多数のご意見をいただいた。現在、同委員会の活動を本学会のホームページに掲載する準備をしており、その中でいただいたご意見や、関連する情報を提供していく予定である。本件に関するご意見やご提案は、随時、委員長宛に送られたい。今回の明治大学開催の講演会では、丸橋巨大会委員長をはじめとする組織委員の方々のご尽力により、6年ぶり（帯広大会以来）で保育室を設置することができた。また、今大会より大会期間中における保育室運営補助が行われることとなった。会員各位には、保育室を活用し、積極的に大会へご参加いただくことを委員一同、望んでいる。（文責：金澤章）

なお、今回、講演をしていただいた東京農工大学の女性キャリア支援・開発センターの活動に関しては、以下のwebサイトでその詳細情報を得ることができる。ご参照いただきたい。

<http://www.tuat.ac.jp/~dan-jo/center/about.html>

◇ 記者レク報告：日本育種学会第113回講演会 選定課題記者会見報告

会見日時：平成20年3月21日（金）11：00～

会見場所：学協会分館（東京都文京区本郷7-3-1（東京大学構内赤門隣））

出席者：幹事長 大澤良、庶務幹事 中園幹生

参加報道機関：日経BP社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本農業新聞社、科学新聞社、化学工業日報社、日刊工業新聞社、東京新聞社（8社）

平成20年3月28日（金）、29日（土）に明治大学（川崎市多摩区）で開催された日本育種学会第113回講演会の講演課題（計290課題）の中から常任幹事によって選

定された以下の6課題について、記者会見を実施した。

【記者会見課題】

- (1) 講演番号207 「イネ種子貯蔵タンパク質突然変異体 *esp2* における米粉の製パン特性」川越靖¹・高星千恵美¹・恩田弥生¹・熊丸敏博²・佐藤光²（1. 農業生物資源研究所、2. 九州大学大学院農学研究院）
 - (2) 講演番号404 「マイクロサテライトの変異に基づいたカブ (*Brassica rapa*) 品種間の遺伝的類縁関係」高橋有、横井修司、高畑義人（岩手大学農学部）
 - (3) 講演番号434 「ダイズモザイクウイルス抵抗性遺伝子の連鎖マーカー開発と実用大豆品種への導入」高田吉丈¹・河野雄飛¹・加藤信¹・猿田正恭²・中本有美³・石本政男³・湯本節三¹（1. 東北農研、2. 近中四農研、3. 北農研）
 - (4) 講演番号519 「穂発芽耐性に優れデオキシニバレノール蓄積が少ない春まき小麦新品種「はるきらり」の育成」中道浩司¹・佐藤導謙²・吉村康弘¹・小林聡¹・西村努¹・池永充伸¹・佐藤奈奈¹（1. 北見農試、2. 佐藤技術士事務所）
 - (5) 講演番号P05 「製パン適性をもつ温暖地向け硬質小麦新品種「ユメシホウ」の育成」関昌子¹・乙部千雅子¹・松中仁¹・藤田雅也²・吉岡藤治¹・柳沢貴司³・吉田久¹（1. 作物研、2. 九州沖縄農研、3. 近畿中国四国農研）
 - (6) 講演番号P14 「コシヒカリ育成系譜上の水稻品種における第2染色体食味QTL領域の遺伝子型」小林麻子、富田桂（福井県農業試験場）
- それぞれの課題について発表者に説明用レジュメを作成していただき、それに基づいて大澤と中園が説明し、質疑応答を行った。記者会見後、講演番号P14の記事が3月30日発行の毎日新聞に掲載され、さらにYahooニュース、gooニュース等で報道された。また、講演番号P05の記事が3月27日発行の日本農業新聞および4月7日発行の毎日新聞に掲載された。さらに、講演番号207の記事が4月8日発行の化学工業日報に掲載され、講演番号434の記事が4月16日発行の日本農業新聞に掲載された。

集会の案内

◇ 内閣府主催 食料・生物生産研究連携群シンポジウム『環境・エネルギー・食料の課題解決に貢献するゲノム育種の現状と将来展望』

開催日：平成20年6月10日（火）13:00～17:00

開催場所：全社協・灘尾ホール（〒100-8980 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号新霞ヶ関ビル1F）

プログラム：

1. 開会の辞（13：00～13：10）
食料・生物生産研究連携施策群コーディネーター 小川奎
2. 話題提供（13：10～15：00）

(1) 食料問題への貢献

・食料問題の解決に向けたゲノム育種の可能性 名古屋大学生物機能開発利用研究センター 教授 松岡信

・新農業展開ゲノムプロの紹介 農業生物資源研究所 理事 佐々木卓治

(2) エネルギー、環境問題への貢献の可能性

・エネルギー問題への貢献と GMO の推進 かずさ DNA 研究所 所長 大石道夫

・荒漠地の緑化等環境問題への貢献 森林総合研究所 生物工学研究領域長 篠原健司

(3) 国際的な貢献の可能性 農研機構作物研究所 所長 (前 CIMMYT 所長) 岩永勝

休憩 (15:00 ~ 15:15)

3. パネルディスカッション (15:15 ~ 16:55)

GMO をめぐる諸情勢と今後の展開方向について

モデレータ: 食料・生物生産研究連携施策群 コーディネーター 小川奎; 理化学研究所 植物科学研究センター長 篠崎一雄

パネリスト (予定): 筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授 江面浩; サントリー株式会社植物科学研究所 所長 田中良和; 宮城大学食産業学部フードビジネス学科 教授 三石誠司; 府省関係者

4. 閉会の辞 (16:55 ~ 17:00)

内閣府大臣官房審議官 (科学技術政策担当) 大江田憲治
詳細は下記 URL をご参照下さい。

<http://www.renkei.jst.go.jp/sympo/food01/program.html>

◇ **第 3 回アジア染色体コロキウム：染色体研究の新展開—アジア染色体研究ネットワークの構築— (ACC3; The 3rd Asian Chromosome Colloquium 2008, Advances in Chromosome Sciences—Development of Chromosome Research Network in Asia—)**

開催日: 平成 20 年 12 月 1 日 (月) ~ 4 日 (木)

開催場所: 大阪大学 コンベンションセンター (大阪府吹田市山田丘)

主催: 第 3 回アジア染色体コロキウム・第 18 回染色体コロキウム・第 59 回染色体学会

後援: 日本遺伝学会・日本育種学会・日本植物学会・日本人類遺伝学会

大会参加・講演申し込み: 詳しくは第 3 回アジア染色体コロキウム (ACC3) のホームページ (<http://www.acc3.jp>) をご覧ください。参加・講演の申し込みは、第 3 回アジア染色体コロキウム (ACC3) のホームページの参加・講演申し込みフォームから申し込んでください。ここに詳細な情報は逐次掲載していきます。

申し込み締切: 平成 20 年 8 月 31 日

プログラム (講演内容など): 3 つのプレナリーレクチャー (基調講演) と 6 つのシンポジウムを設定しており、その他にもワークショップやポスター発表を準備しておりますので、皆様のご参加宜しくお願いいたします。

予定されている題目や発表者は、次のようになっております (タイトル未決定のものも含まれます)。

【Plenary lectures】

『New technology in chromosome research』

Kiichi Fukui (Osaka University)

Recent advances in chromosome research

Tatsuo Ushiki & Osamu Hoshi (Niigata University)

Scanning probe microscopy of human chromosomes

Eiichi Tamiya (Osaka University)

Chromosome chip technology (Tentative)

Paul Fransz (Amsterdam University)

Advances in EDF-FISH (Tentative)

『Application of chromosome research to medicine and agriculture』

Umesh C. Lavania (Central Institute of Medicinal and Aromatic Plants, India)

Applied chromosome studies in medicine and agriculture

Mitsuo Oshimura (Tottori University)

Construction of human artificial chromosome and the medical applications

Yasuhiko Mukai (Osaka Kyoiku University)

New frontiers of chromosome sciences for sustainable agriculture

【Symposium】

『3D nuclear architecture: chromosome territories and nuclear dynamics』

Hyockman Kwon (Hankuk University of Foreign Studies)

Control of DNA replication by BAF53-dependent higher-order chromatin structure

Masahiko Harata (Tohoku University)

Involvement of the actin-related protein Arp6 in spatial organization of radial chromosome territories

Takanori Amano (National Institute of Genetics)

Gene kissing: A remote enhancer-promoter interaction regulates expression of Sonic hedgehog in mouse limb buds

Hideyuki Tanabe (The Graduate University for Advanced Studies, Sokendai)

Chromosome kissing events for gene regulation and genomic evolution

『Neotechnologies for chromosome engineering in plant』

Kiyotaka Nagaki (Okayama University)

Dynamic behavior of artificial chromosome in plant

Nobuko Ohmido (Kobe University)

High-resolution FISH for gene mapping and molecular analysis of plant chromosomes.

Kazuya Nanto (Nippon Paper Industries Co. Ltd)

Technology of chromosome loss in plant.

『Molecular regulation of chromosome assembly and segregation』

Jibak Lee (RIKEN)

Molecular Mechanisms of Meiotic Chromosome Behavior in Mouse Oocytes

Miho Ohsugi (University of Tokyo)

Kid-Mediated Anaphase Chromosome Compaction Safeguards Mouse Early Embryos Against Multinuclear Formation

Kazuhiro Maeshima (RIKEN)

Mitotic Chromosome Structure: Irregular Folding of Nucleosome Fiber

Kohta Takahashi (Kurume University)

Heterochromatin Integrity Affects Chromosome Reorganisation after Centromere Dysfunction

『Chromosome Engineering in Horticultural Plants』

Aziz Purwantoro (Gadjah Mada University, Indonesia)

Sex identification on Snakefruit (*Salacca zalacca*) revealed by fluorescence banding pattern

Masayoshi Shigyo (Yamaguchi University)

Applications and impact of alien-chromosome addition lines to studies on genetics and breeding in the genus *Allium*

Takato Koba (Chiba University)

Phylogenetic analysis in the genus *Lycoris*

『Chromosome Engineering in cereals』

T. R. Endo (Kyoto University)

Genome shuffling in Triticeae

M. Kishii (CIMMYT-International Maize and Wheat Improvement Center, Mexico)

Application of chromosome engineering for wheat breeding in CIMMYT

H. K. Chaudhary (Himachal Pradesh Agricultural University, India)

Dynamics of doubled haploidy breeding and molecular cytogenetic approaches in wheat (tentative)

『Chromosome aberrations induced by low dose radiation』

Kimio Tanaka & Atushi Kohda (Institute for Environmental Sciences, Aomori)

Dose and dose-rate effects on chromosome aberrations in splenocytes from mice continuously exposed to low-dose-rate gamma-rays

Toshiyasu Iwasaki (Central Research Institute of Electric Power Industry, Tokyo)

Dose response of chromosome aberrations at very low

dose range

Chunyan Wang (Chinese Center for Disease Control and Prevention, Beijing, China)

Chromosome aberrations observed in high levels of natural radiation areas in China (Tentative)

Wei Zhang (Chinese Center for Disease Control and Prevention, Beijing, China)

Effect of smoking on the chromosome aberrations induced by environmental mutagens (Tentative)

大会運営組織 :

【Organizers】

Kenji Taniguchi (Hiroshima University)

Xueyong Zhang (Chinese Academy of Agricultural Sciences)

Yoichi Matsuda (Hokaido University)

Takato Koba (Chiba University)

Youzhi Ma (Chinese Academy of Agricultural Sciences)

【International Steering Committee】

(Japan) Kiichi Fukui, Taturou Ikeuchi, Takato Koba, Yoichi Matsuda, Yasuhiko Mukai, Kenji Taniguchi, Hisashi Tsujimoto

(China) Xiangrong Cao, Gulu Liang, Youzhi Ma, Wenqin Song, Daming Zhang, Xueyong Zhang

(Korea) Jae-Wook Bang, Nam-Soo Kim, Bong Bo Seo

(India) Harindra Singh Balyan, Harinder Kumar Chaudhary, Umesh Chandra Lavania

(Thailand) Somsak Apisitwanich

【Executive Committee】

Shuichi Abe, Nobuko Ohmido, Takao Ono, Yoshitaka Obara, Souichiro Kubota, Asato Kuroiwa, Ken Saihara, Go Suzuki, Hideyuki Tanabe, Hiroyuki Tateno, Masashi Nakata, Sachihiro Matsunaga, Ikuo Miura, Maki Yamamoto, Toshiyuki Wako, Sumire Inaga, Akinori Uchino

ご不明の点などございましたら、下記連絡先までメールにてお問い合わせください。

大会事務局 WEB 担当・若生俊之

E-mail: acc3@acc3.jp

大会事務局広報担当・鈴木剛

〒 582-8582 柏原市旭ヶ丘 4-698-1

大阪教育大学 教養学科自然研究講座

大会委員長・谷口研至

E-mail: taniken@hiroshima-u.ac.jp

Tel: 082-424-7491, Fax: 082-424-2471

〒 739-8526 東広島市鏡山 1-3-1

広島大学大学院理学研究科附属植物遺伝子保管実験施設
詳細は下記 URL をご参照下さい。

<http://www.acc3.jp>

研究助成公募の案内

◇ 平成 20 年度基礎科学研究助成および環境研究助成のおしらせ (財)住友財団

「(財)住友財団 2008 年度基礎科学研究助成」

対象：理学（数学，物理学，化学，生物学）の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む）

応募資格：若手研究者（個人またはグループ）

助成金額：

- (1) 助成金の総額 1 億 4,000 万円
- (2) 1 件当たりの助成額 最大 500 万円
- (3) 助成件数の目処 100 件程度
- (4) 助成期間 1 年間 但し希望される場合は更に 6 カ月間を限度として延長可。

応募方法：住友財団のホームページ (<http://www.sumitomo.or.jp/>) 基礎科学研究助成から，募集要項・申請書記入要領・申請書フォーム (PDF WORD) をダウンロードしていただくこともできますが，申請書提出は財団まで郵送ください。

応募締切日：2008 年 6 月 30 日（月）必着

連絡先：〒 105-0012 東京都港区芝大門 1-12-16 住友芝大門ビル 2 号館

財団法人住友財団（担当 中山）

Tel: 03-5473-0161 Fax: 03-5473-8471

E-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

「(財)住友財団 2008 年度 環境研究助成」

対象：一般研究：環境に関する研究全般（分野は問いません）；課題研究：募集課題「新たな政策提言に資する環境研究」

応募資格：制約はありません。（個人またはグループ）

助成金額：

- (1) 助成金の総額 1 億円（一般研究 8,000 万円，課題研究 2,000 万円）
- (2) 1 件当たりの助成額 一般研究最大 500 万円；課題研究最大 1,000 万円
- (3) 助成件数の目処 一般研究 50 件程度 課題研究 2 件
- (4) 助成期間 一般研究 1 年間 但し希望される場合は更に 6 カ月間を限度として延長可。課題研究 2 年間延長不可

応募方法：住友財団のホームページ (<http://www.sumitomo.or.jp/>) 環境研究助成から，募集要項・申請書記入要領・申請書フォーム (PDF WORD) をダウンロードしていただくこともできますが，申請書提出は財団まで郵送ください。

応募締切日：2008 年 6 月 30 日（月）必着

連絡先：〒 105-0012 東京都港区芝大門 1-12-16 住友芝大

門ビル 2 号館

財団法人住友財団（担当 佐藤）

Tel: 03-5473-0161 Fax: 03-5473-8471

E-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

談話会だより

◇ 北海道地区

平成 19 年度 日本育種学会・日本作物学会北海道談話会

日時：平成 19 年 12 月 1 日（土）北海道大学農学部

◎一般講演

1. イネ感光性遺伝子 *se-pat* の遺伝学的解剖. 上床修弘・池田祐士・佐野芳雄（北大院農）
2. イネにおける 2 重外穎遺伝子 [*dbl(t)*] と内穎発育不全 -1 遺伝子 (*dp1*) の複対立性. 千葉あや乃・長野宏則・佐野芳雄・高牟禮逸朗（北大院農）
3. BT 型 CMS に関与する *orf79* 遺伝子座の野生イネにおける分布と構造多様性. 太田宇香・長野宏則・金澤章・佐野芳雄（北大院農）
4. イネの幼芽期における低温抵抗性 QTL のマッピング. Akhil Ranjan Baruah・時園佳朗・大西一光・小熊恭代・石郷岡典子・安達美江子・佐野芳雄（北大院農）
5. 一年生野生イネが保持する第 7 染色体上の草型関連 QTL クラスターの解析. 丸岡正道・市川直史・大西一光・佐野芳雄（北大院農）
6. イネ第 6 染色体にみられる雑種不稔現象の比較遺伝. 小出陽平・新屋雄平・大西一光・金澤章・佐野芳雄（北大院農）
7. イネの遠縁種間交雑より見いだされた花粉キラー S13 候補遺伝子領域における変異. 池ヶ谷智仁・小出陽平・佐野芳雄・金澤章（北大院農）
8. イネ穂ばらみ期耐冷性 QTL (*qFLT-6*) の「ほしのゆめ」への導入による耐冷性強化への効果. 松葉修一・黒木慎・斎藤浩二・横上晴郁・清水博之（北海道農業研究センター）
9. トウモロコシ第 1 染色体に座上する開花期に関する QTL の評価. 榎宏征・濃沼圭一（北海道農業研究センター）
10. 北海道のフィールド下での一年生野生イネ由来の表現型可塑性が示す複雑なビヘイヴィア. 伊藤勇樹¹⁾・丸岡正道²⁾・市川直史²⁾・大西一光²⁾・佐野芳雄²⁾・清水博之¹⁾ (¹⁾北海道農業研究センター, ²⁾北海道大学農学研究科)
11. 北海道水稲育種における低アミロース関連 DNA マーカー利用の有効性. 品田博史¹⁾・竹内善信²⁾・安東郁男²⁾・佐藤毅¹⁾・沼尾吉則¹⁾・粕谷雅志¹⁾・木下雅文¹⁾ (¹⁾北海道立上川農業試験場 水稲科, ²⁾(独)作物研究所 稲マーカー育種研究チーム)
12. 紫黒米（黒米）モチ品種「きたのむらさき」と新育成ウルチ品種「TMK」の育成について. 石村櫻¹⁾・岡田佳菜子¹⁾・森志郎¹⁾・石田潔¹⁾・直井弘典¹⁾・立澤文見²⁾・木下厚³⁾・岡本吉弘⁴⁾・佐竹徹夫³⁾・半場吉之助³⁾ (¹⁾拓殖大学北海道短大, ²⁾南九州大学, ³⁾元拓殖大学北海道短大, ⁴⁾酪農学園大学)
13. 紫黒米（黒米）新育成ウルチ品種「TMK」の発芽について. 古屋誠・石村櫻（拓殖大学北海道短期大学）
14. 北海道産米と府県産米の

食味の違いに関する理化学的解析. 木下雅文・沼尾吉則・佐藤毅(道立上川農業試験場) 15. 遮光および窒素追肥処理が水稻育成系統の収量およびタンパク質含有率に及ぼす影響. 梶原靖久¹⁾・田中一生²⁾・清水博之³⁾・田子旭彦¹⁾・岩間和人¹⁾(¹⁾北大院農,²⁾北海道立中央農試,³⁾北農研セ) 16. ポット栽培イネの生育に及ぼす乳牛糞尿由来消化液の効果. 中村愛¹⁾・坂野正和²⁾・松田従三³⁾・荒木肇¹⁾(¹⁾北大北方生物圏フィールド科学センター,²⁾日本車輛製造(株),³⁾北大農学研究院) 17. 水稻開花期耐冷性検定試験を利用した胴粒発生簡易測定法の開発. 粕谷雅志・木下雅文・沼尾吉則・佐藤毅(北海道立上川農業試験場水稻科) 18. 道南地方における2007年水稻冷害の解析. 菅原彰・荒木和哉・五十嵐俊成(北海道立道南農業試験場) 19. 2007年南空知地域における水稻の作柄不良の要因について—上川中央部との比較—. 其田達也¹⁾・吉村徹²⁾・田中一生¹⁾(¹⁾北海道立中央農業試験場,²⁾北海道立上川農業試験場) 20. トウモロコシの菌根菌共生率に関する品種間差異とその要因. 小林創平・村木正則・榎宏征・濃沼圭一・加藤邦彦・唐澤敏彦・野副卓人(北海道農業研究センター) 21. トウモロコシにおける施肥方法と播種深度が耐倒伏性に及ぼす影響. 紀藤謙治¹⁾・佐藤翼¹⁾・岩間和人¹⁾・実山豊¹⁾・市川伸次²⁾(¹⁾北大院農,²⁾北大北方セ) 22. 生育特性およびSSRマーカーによるススキ属遺伝資源の解析. 鈴木健司¹⁾・平田聡之²⁾・山田敏彦²⁾(¹⁾北大環境科学院,²⁾北大北方生物圏フィールド科学センター生物生産農場) 23. 畑作圃場への侵入を防ぐためのナス科植物の生態的特性の調査. 石川枝津子¹⁾・浅井元朗²⁾・石田茂樹¹⁾・森元幸¹⁾(¹⁾北海道農業研究センター,²⁾中央農業総合研究センター) 24. リビングマルチ栽培によるダイズわい化病の減少. 辻博之¹⁾・大下泰生¹⁾・君和田健二¹⁾・荒木肇²⁾(¹⁾北海道農業研究センター,²⁾北海道大学北方生物圏フィールド) 25. 地球温暖化が雑草とカバークロップの競合関係に及ぼす影響. 弓立敏子¹⁾・中村郷久¹⁾・内野宙¹⁾・岩間和人¹⁾・実山豊¹⁾・市川伸次²⁾(¹⁾北大院農,²⁾北大北方セ) 26. トウモロコシおよびダイズの植被率が雑草の生育と作物収量に及ぼす影響—栽植密度および品種の関係—. 中村郷久¹⁾・弓立敏子¹⁾・内野宙¹⁾・岩間和人¹⁾・実山豊¹⁾・市川伸次²⁾(¹⁾北大院農,²⁾北大北方セ) 27. 北海道中央部で多収を示すソルガムの成長解析—サイレージ用トウモロコシとの比較—. 義平大樹¹⁾・森山亜紀¹⁾・小阪進一¹⁾・高井智之²⁾・後藤和美³⁾・清沢敦志³⁾(¹⁾酪農学園大学,²⁾九州沖縄農業研究センター,³⁾長野県畜産試験場) 28. 春まき小麦の小麦粉とふすまにおけるデオキシニバレノールの分布. 西尾善太・伊藤美環子・谷尾昌彦・田引正・山内宏昭(北海道農研センター) 29. 国産小麦の薄力粉特性の解析. 及川華希¹⁾・西尾善太²⁾・羽田崇伸¹⁾・田引正²⁾・伊藤美環子²⁾・谷尾昌彦²⁾・山内宏昭²⁾・三浦秀穂¹⁾(¹⁾帯広畜産大学,²⁾北海道農研センター) 30. 施肥条件の違いがコムギ子実の灰分含有率に及ぼす影響について. 西村

努¹⁾・佐藤三佳子²⁾・林将也³⁾・吉村康弘¹⁾(¹⁾道立北見農試,²⁾道立上川農試,³⁾ホクレン農業総合研究所) 31. コムギ農林61号Wxタンパク質準同質遺伝子系統の草姿と原粒形質の変異. 田引正¹⁾・西尾善太¹⁾・伊藤美環子¹⁾・谷尾昌彦¹⁾・山内宏昭¹⁾・大野福公²⁾・三浦秀穂²⁾(¹⁾北海道農業研究センター,²⁾帯広畜産大学) 32. 地下灌漑による土壌水分制御がコムギとダイズの生育, 収量に及ぼす影響. 藤田正平・坂口雅己・鈴木和織・柳原哲司(北海道立上川農業試験場) 33. 国際トウモロコシ・コムギ改良センター(CIMMYT)における高製粉性小麦育種について. 中村洋¹⁾・R. Trethowan²⁾(¹⁾農研機構作物研究所,²⁾シドニー大学・CIMMYT) 34. 道立農試の小麦育種におけるDNAマーカーの利用. 鈴木孝子¹⁾・神野裕伸¹⁾・中道浩司²⁾・佐藤奈奈²⁾・西村努²⁾・小林聡²⁾・池永充伸²⁾・吉村康弘²⁾・竹内徹¹⁾(¹⁾北海道立中央農業試験場,²⁾北海道立北見農業試験場) 35. 秋まき小麦における赤かび病抵抗性系統の育成と育種戦略. 小林聡・池谷美奈子・吉村康弘(北海道立北見農業試験場) 36. 今金町における土壌化学性と秋まき小麦の多収条件の解析. 森貞美智子¹⁾・菅野千尋¹⁾・釣谷潔¹⁾・五十嵐俊成²⁾・荒木和哉²⁾・岸田幸也¹⁾(¹⁾檜山農業改良普及センター檜山北部支所,²⁾道南農業試験場) 37. 秋まき小麦の多収性育種に関する一考察—「きたほなみ」を例として—. 柳沢朗・吉村康弘・西村努・前野真司・渡辺祐志(北海道立中央農業試験場) 38. 赤粒コムギ×白粒コムギ集団における種子休眠性QTLの解析. 三浦香織・永幡智恵・Kottarachchi NS・三浦秀穂(帯広畜産大学) 39. 白粒コムギ分離集団における種子休眠性QTL, QPhs-3ASとQPhs-4ALの効果. 成田康浩・高尾慎一・三浦秀穂(帯広畜産大学) 40. 白粒コムギ集団における種子休眠性QTLのマッピング. Kottarachchi NS・高尾慎一・加藤清明・三浦秀穂(帯広畜産大学) 41. ゼンコウジコムギを用いた強種子休眠性白粒系統の開発. 高尾慎一・加藤清明・三浦秀穂(帯広畜産大学) 42. バレイショの乾燥抵抗性品種「根椶」において土壌水分条件が光合成と収量に及ぼす影響. 後藤晶子¹⁾・岩間和人¹⁾・ペマ・ワンチュック¹⁾・出口哲久¹⁾・佐藤正明¹⁾・実山豊¹⁾・市川伸次²⁾(¹⁾北大院農,²⁾北大北方セ) 43. 土壌水分条件が北海道大学農学部附属農場で栽培したバレイショの吸水量に及ぼす影響. 佐藤正明¹⁾・出口哲久¹⁾・ペマ・ワンチュック¹⁾・後藤晶子¹⁾・岩間和人¹⁾・実山豊¹⁾・市川伸次²⁾(¹⁾北大院農,²⁾北大北方セ) 44. バレイショ栽培の病害虫防除における電解水の評価. 青野桂之¹⁾・岩間和人¹⁾・実山豊¹⁾・市川伸次²⁾(¹⁾北大院農,²⁾北大北方セ) 45. 放射線照射による有色バレイショの変異. 向島信洋¹⁾・小林晃¹⁾・津田昌吾¹⁾・森元幸¹⁾・林一也²⁾(¹⁾北海道農業研究センター,²⁾東京家政学院短期大学) 46. 北海道内外で収集したダットンソバ遺伝資源の特性. 本田裕・六笠裕治・鈴木達郎(北海道農業研究センター) 47. パレスチナ自治区の農業事情. 佐藤久泰^{1,2)}・尾形佳彦²⁾(¹⁾佐藤久泰技術士事務所,²⁾日本工営(株)).

48. ICRISAT のヒヨコマメミニコアコレクションにおける根径の遺伝的変異. 岩佐倫希¹⁾・佐藤正明¹⁾・寺内方克²⁾・岩間和人¹⁾・実山豊¹⁾ (1) 北大院農, (2) 九州沖繩農研セ) 49. 開花期以降の気象条件からみたダイズ裂皮発生要因. 鴻坂扶美子・大西志全・田中義則 (北海道立中央農試) 50. ダイズ裂開粒の発生要因の解明と発生の品種間差. 大西志全¹⁾・山崎敬之²⁾・三好智明²⁾・田中義則¹⁾ (1) 道立中央農試, (2) 道立十勝農試) 51. ダイズ品種「トヨハルカ」の耐冷性に関連する QTL. 池田達哉¹⁾・大西志全²⁾・三好智明³⁾・千田峰生⁴⁾・石本政男⁵⁾・喜多村啓介¹⁾・船附秀行⁵⁾ (1) 北大農, (2) 中央農試, (3) 十勝農試, (4) 弘前大農, (5) 北農研) 52. ダイズにおいて F3'H mRNA 蓄積量が毛茸の着色に関与する. 永松敦・増田税・松浦英幸・喜多村啓介・阿部純・金澤章 (北大院農) 53. ダイズ種子貯蔵タンパク質 β -コングリシニン α サブユニット遺伝子プロモーターの形質転換シロイヌナズナにおける時間的・空間的な発現制御. 井元勇介・喜多村啓介・金澤章 (北大院農) 54. イタリア由来イネ系統「*Italica Livorno*」を用いたイネ低温発芽性遺伝子の単離. 関口博史¹⁾・松田康之¹⁾・小野和子²⁾・矢野昌裕²⁾・藤野賢治¹⁾ (1) ホクレン, (2) 生物研) 55. イネ細葉変異体 narrow leaf 7 の原因遺伝子の単離. 藤野賢治¹⁾・関口博史¹⁾・松田康之¹⁾・小沢憲二郎²⁾・西村岳志³⁾・小柴共一³⁾・Marco Fraaije⁴⁾ (1) ホクレン, (2) 北農研, (3) 首都大学東京, (4) Groningen 大) 56. ホウレンソウにおいて見出される間性の遺伝解析. 那野覇至・小野寺康之・三上哲夫 (北海道大学大学院農学院) 57. 核ゲノムにコードされるテンサイミトコンドリア rps19 の細胞内局在シグナル. 松永宗幸・高橋愛也・久保友彦・三上哲夫 (北海道大学大学院農学院) 58. テンサイの花散距離と交雑性. 高橋宙之・島本義也・岡崎和之・田口和憲 (北海道農業研究センター) 59. テンサイ一代雑種の冠部および根部における収量推移. 岡崎和之・高橋宙之・田口和憲 (北海道農業研究センター) 60. テンサイ自殖系統間における DNA 多型を利用した近縁度解析. 田

口和憲・高橋宙之・岡崎和之・阿部英幸 (北海道農業研究センター) 61. テンサイ育成系統における培養適性の系統間差異. 樋浦里志・富田謙一・玉掛秀人 (北海道立中央農業試験場)

日本育種学会会員異動(2008.1.21 ~ 2008.4.20)

◇ 普通会員入会: 小澤創 (福島), 笹原英樹 (新潟), 小堀智史 (茨城), 大石英樹, 沖山毅 (栃木), 西川康之 (千葉), 後藤晋, 吉野熙道 (東京), 内堀篤 (神奈川), 芦田かなえ (広島)

◇ 学生会員入会: 新井麻衣子 (北海道), 岩谷朋美 (青森), 鈴木圭 (山形), 橋本将文 (東京), 櫻井美仁 (新潟), 石原倫光 (三重), 稲垣晴香, 平田香里 (京都)

◇ 外国会員: BYUNG-DONG KIM, Chung Jongil, 金基現, 金亞凜, 徐形石, 姜盛皓 (大韓民国)

◇ 外国団体会員: 西北農林科技大学, 楊州大学図書館逸夫館現刊閲覧室 (中華人民共和国), 行政院農委會農業試験所図書室, 国立台湾大学図書館期刊 (中華民国)

住所変更等

◇ 普通会員: 相川宗巖, 江部成彦, 田澤暁子, 松本謙一郎 (北海道), 山岸紀子 (岩手), 早坂浩志 (宮城), 高田吉丈 (秋田), 遠藤真咲, 川崎頭子, 小山朗夫, 晴山聖一, 米丸淳一 (茨城), 蝦名真澄, 大同久明 (栃木), 野澤樹, 秋田祐介 (群馬), 佐藤宏之, 中村英光, 南晴文 (東京), 矢野健太郎 (神奈川), 岩本嗣, 羽方誠 (新潟), 黒田晃 (石川), 天野淳二, 岩尾純子 (愛知), 谷尾昌彦 (三重), 岸本妙子, 武田真 (岡山), 長嶺敬 (香川), 岩淵哲也 (福岡), 金子博 (熊本)

◇ 学生会員: 岡部佳弘 (茨城), 谷垣晴美 (京都)

◇ 外国会員: 禹仙熙 (大韓民国), HIROSHI HISANO (アメリカ合衆国)

◇ 賛助会員: みかど協和 (株) (千葉)